

品詞分解 確認テスト（古典文法の総合演習） 解答・解説

■ 解答・解説

問1 山里（名詞）／は（係助詞）／冬（名詞）／ぞ（係助詞）／さびしさ（名詞）／まさり（動詞・ラ行四段・連用形）／ける（助動詞「けり」・連体形）。文末が連体形「ける」なのは「ぞ」の結び。

問2 「まさり」＝動詞。ラ行四段活用・連用形（直後の助動詞「けり」が連用形接続のため）。

問3 文中に係助詞「ぞ」があり、その係り結びの法則によって文末が連体形「ける」になっている。

問4 花（名詞）／の（格助詞）／色（名詞）／は（係助詞）／うつり（動詞・ラ行四段・連用形）／に（助動詞「ぬ」・連用形）／けり（助動詞「けり」・終止形）／な（終助詞）。「移ってしまったなあ」の意。

問5 「うつり」＝動詞。ラ行四段活用・連用形（直後の助動詞「ぬ（に）」が連用形接続のため）。

問6 春（名詞）／の（格助詞）／夜（名詞）／の（格助詞）／闇（名詞）／は（係助詞）／あやなし（形容詞・ク活用・終止形）。「あやなし」は「道理に合わない・無意味だ」の意。

問7 「あやなし」＝形容詞。ク活用・終止形（言い切りの形）。

問8 風（名詞）／の（格助詞）／音（名詞）／に（格助詞）／ぞ（係助詞）／おどろか（動詞・カ行四段・未然形）／れ（助動詞「る」・連用形）／ぬる（助動詞「ぬ」・連体形）。文末が連体形「ぬる」なのは「ぞ」の結び。

問9 「おどろか（動詞・未然形）／れ（助動詞「る」）／ぬる（助動詞「ぬ」）」と分解できる。「おどろく（はっと気づく）」のような知覚・心情を表す動詞に付くため、「れ」は意志的な受身ではなく、自然とそうなる「自発」の意味になる。

問10 「悲しから」＝形容詞。シク活用・未然形（直後の推量の助動詞「む」が未然形接続のため）。

問11 ⑤「（もし）月を見たならば、とても悲しいだろう。」（「見ば」は未然形＋「ば」で仮定条件。）

問12 「聞こえ」＝動詞。ヤ行下二段活用・未然形（直後の打消の助動詞「ず」が未然形接続のため）。

問13 ⑥「鳥の音が聞こえない。」（「ず」は打消の助動詞。）

問14 いざ（感動詞）／、川辺（名詞）／へ（格助詞）／行か（動詞・カ行四段・未然形）／む（助動詞「む」・終止形）。「さあ、川辺へ行こう」の意。

問15 「ければ」の「けり」＝過去（～た）の意味。「たり」＝完了・存続（～た・～ている）の意味。（「主人がいたので、門を開けた／開けてある」の意。）

問16 ①「ける」＝助動詞「けり」、意味は詠嘆（～だなあ）、活用形は連体形（「ぞ」の結び）。②「けり」＝助動詞「けり」、意味は詠嘆（～だなあ）、活用形は終止形。

問17 ④「れ」＝助動詞「る」、ここでは自発（自然と～される）の意味。⑤「む」＝助動詞「む」、ここでは推量（～だろう）の意味。

問18 ①の「ぞ」＝係助詞。結びの語「ける」は連体形。④の「ぞ」＝係助詞。結びの語「ぬる」は連体形。いずれも係り結びの法則による。

問19 ②「な」＝終助詞（詠嘆・念押し）。⑦「いざ」＝感動詞。

問20 ①「まさり」＝連用形（助動詞「けり」に連なる）。④「おどろか」＝未然形（助動詞「る」に連なる）。

問21 ⑤「見」＝未然形（直後の接続助詞「ば」が未然形接続で順接仮定条件を作るため）。⑦「行か」＝未然形（助動詞「む」に連なる）。

問22 ①「山里では、冬がとりわけ寂しさがまさることだなあ。」④「風の音に、自然とはっと気づかされてしまったことだ。」
